

## シャツ教材としての人形服

加藤 祥子・高柳 紅美  
(家政教育講座・家政教育専修)

### Sewing Doll's Shirt in order to Sew Women's Shirt

Shouko KATO・Kumi TAKAYANAGI  
(Department of Home economics)

**要約** 学校教育における被服製作では立体構成の仕組みと仕立て方を同時に経験することになる。とりわけ着用目的で製作する作品は形が大きく、理解する前に製作することのみに気を取られてしまう。満足のいく仕上がりを期待するためには、縫製や注意点の理解が不可欠である。前回の実験<sup>1)</sup>で実物大のシャツを製作する前に同形の人形用のシャツを製作したところ理解度や仕上がり具合に良い結果が得られた。今回は人形用シャツの型紙に着目して作りやすい形態を探った。

**Keywords** : シャツ, 人形, 型紙

#### 1. 緒言

学校教育における被服製作で満足のいく作品を製作できているか疑問である。

前回、男女ともに着用可能なシャツと理解度や仕上がりに影響を及ぼすと思われる人形用シャツを取り上げ検討した結果、仕上がり具合や、授業後のアンケートから、シャツスリーブのシャツを製作する場合、シャツスリーブの人形用シャツの製作を予め行うことが有効であることが分かった。

着衣基体として想定したバービー\*型人形はバスト、ウエスト、ヒップの凹凸が人体に近くとらえられているので初心者が立体構成の仕組みを理解しやすい。また仕上がった服を人形に着せて仕上がり具合を見、実寸サイズの被服を製作する際の注意点を確認できるとともに完成に伴う楽しさや成就感も味わえる。さらに形の違うピースを裏から見て接合するという理解しにくい立体構成の仕組みを経験することができる。

今回は前回の型紙を改良してより作りやすい人形用シャツの型紙を目指す。

#### 2. 実験

実物大でも難しい箇所となる襟、襟付け、袖、袖付けに検討項目を絞り、予備的に数着の人形用シャツを作った。これらの項目は前回においても難しいと感じられた箇所である。身頃は実物大のシャツ(図1)から胸囲の比率で縮小し、製図したものをを用いた。縦横約15%の縮小となっている。

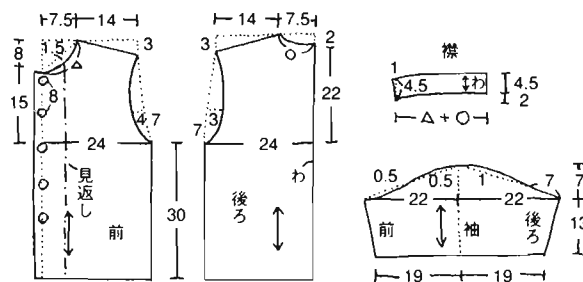


図1 実物大シャツの製図

- 1) 襟：人形サイズでの襟は非常に小さいパーツとなるため扱いにくい。できるだけ襟幅を広げてできあがり大きさを大きくし、扱いやすくすることを試みた。(図2)

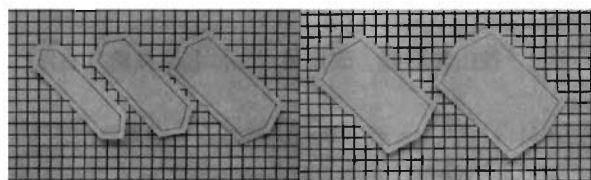


図2 襟幅の比較 (左から10mm, 各5mm増)

また製作過程で襟付け寸法が身頃の襟ぐり寸法より長い方がつけやすいことが分かり、これについても襟付け寸法を5mmずつ延長して検討した。(図3)

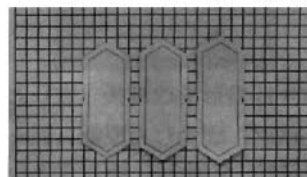


図3 襟付け寸法の比較 (左から71mm, 各5mm増)

- 2) 襟付け：持ち出し部分（重なり部分）が小さいため襟付け止まりがわかりにくい。持ち出しを広げて襟付けを試みた。（図4）

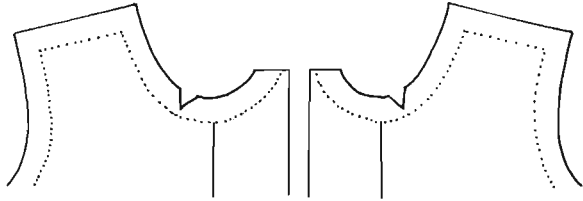


図4 持ち出し8mm（左）と5mm（右）

襟ぐり寸法が短いことも襟付けを困難にしていることから襟ぐりを前後ともに繰り下げ，襟ぐり寸法を長く確保することにした。（図5）各見頃，左側が繰り下げている。

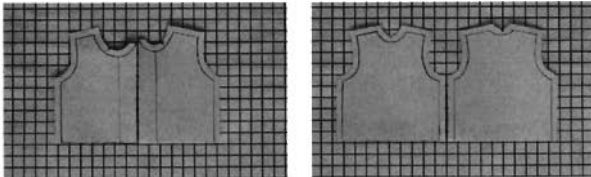


図5 襟ぐりの形態 改良後（左）と改良前（右）

- 3) 袖：実物大のシャツスリーブから縮小したものを使ったが、
- ・袖山の高さが高すぎてアームホールに接合しにくい。
  - ・シャツスリーブであるのにいせ込みが必要に感じられた。
  - ・袖山の高さを非常に低くし，袖幅を広くして袖の形をより扁平に変形する必要がある（図6）。図左が改良後である。

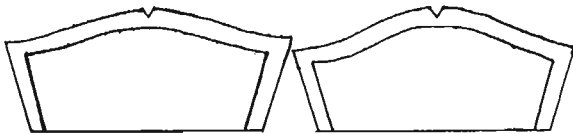


図6 袖山の形態 改良後（左）と改良前（右）

- 4) 袖付け：アームホールの脇側のカーブが急である。緩くして袖付けが楽に行えるようアームホールのカーブをかえる必要がある。（図7）後ろ身頃は図5を参照。

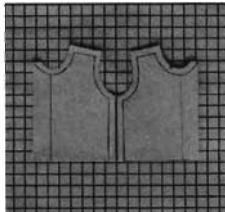


図7 アームホールの形態改良後（左）と改良前（右）

以上4項目を検討し改良した型紙（図8，実物大で稿末に添付：付録1）を用い，製作する。前回の型紙（図9）を用いた場合と比較して作りやすさを見る。被験者は被服構成実習を受講している本学1年生29名である。

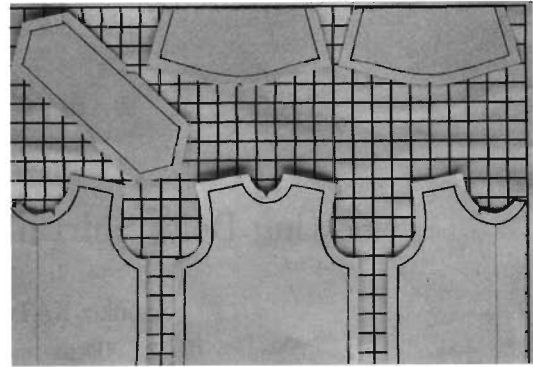


図8 改良後の型紙

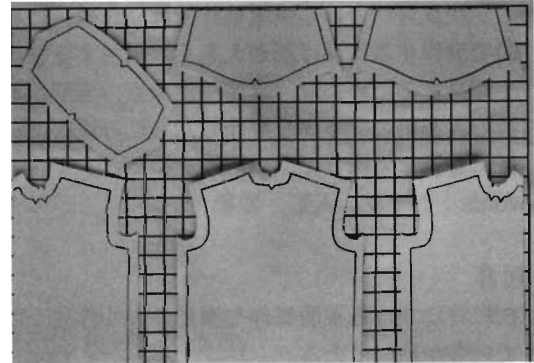


図9 前回の型紙

### 3. 実験計画

・実験授業：29名がほぼ均等になるよう2グループに分類した。製作時間として裁断終了時から製作作業が終了するまでを個々で計り，所用時間を提示することとした。作業の慣れによる製作時間の短縮を考慮して2種のシャツを前半後半に振り分けて縫製する。

実際には第1週に1枚目のシャツを，第2週に2枚目のシャツを作っている。前回用いた型紙をAシャツ，今回の型紙をBシャツとした。

・授業の進め方：縫製手順，縫製法に差異はないためプリントを用意し，プリントに基づいて両グループ同時に授業を進めた。（稿末に添付：付録2）説明は大きめの段階標本を用いて，製作前にまとめて行い，製作途中の質問には個々に対応した。第2週についても同様とした。

・アンケート：両シャツ縫製終了後すぐに記入。

（付録3）

### 4. 結果および考察1—型紙の改良項目について—改良した4項目について検討した結果を以下に示す。

#### 1) 襟

襟を大きくする目的で襟幅を広げていったが，広すぎるものは図10のようなできあがりになりシャツの襟としては大きすぎてしまう。人形に着せてみて一般的なシャツの襟として選択でき，かつ襟幅ができるだけ広いものを選んだ。図8の襟型である。

襟付け寸法も実際につけてみてつけやすいものを

選んだが、襟ぐりと同寸あるいは5mm長いものは襟付け止まりに届かず非常に付けにくいことが分かった。従って襟ぐり寸法より10mm長い寸法で作ることとした。実寸のシャツで考えるとほぼ同寸で作図される襟付け寸法が67mmも長いということになる。図11は襟付け寸法が襟ぐりと同寸、10mm長い襟を示す。



図10 襟が大きすぎる例



図11 同寸(上)と10mm長い(下)

2) 襟付け

持ち出し部分(重なり部分)については前回5mmの型紙だったが、わかりやすく、作りやすい型紙にするため8mmに増やした。

また前回型紙で襟付け止まり(前中心線)と持ち出し分(前端)を表すノッチ(三角の切込み)を2カ所入れていたが、近すぎてノッチとして機能しない傾向が見られた。また大きなノッチを入れすぎて、できあがりに支障が出る場合もあった。従って今回の型紙では襟付け止まりだけにノッチを入れることにした。(図12)

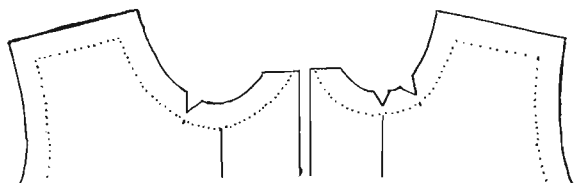


図12 ノッチが1箇所(左)と2箇所(右)

3) 袖について

袖は前回の型紙と比較するとかなり扁平な形に作ってみたが、それでもアームホールに沿わせることが難しく、いせ込みが必要に感じられた。アームホールと袖山長を一致させできあがりよりつけやすさを優先した。

4) 袖付け

アームホール脇側のカーブを内側の緩いカーブに変えたことによってアームホールの長さが短くなる。短くなったアームホールと3)の袖山長を一致させた結果、袖山の形態は扁平になったが、袖全体の大きさは横に広がらずほぼ元の形態を維持した。

5. 結果および考察2—アンケート結果から—

アンケートの調査票は稿末付録3に示す。

1) 表1と図13は襟付けの作業について尋ねた結果である。Aシャツに比べてBシャツの方が「簡単」あるいは

「やや簡単」と50%の者が答えている。

「どちらとも言えない」が40%あるが襟付けの作業自体が直線の襟と小さなカーブを接合することで難易度が高かったものと思われる。

「難しい」と答えた者が10%あったが、口頭で質問してみると襟ぐりに付けたノッチの数の違いにとまどったものであった。特にノッチが数の多いAシャツを先に作っていると、ノッチの少ないBシャツの仕様にとまどったとの事、順が逆ならとまどいは起きなかった。Bシャツはノッチの代わりに前端線を記入している)表2はできあがり襟付けについて尋ねた結果である。

表1 質問1に対する回答

1. 襟付けの作業はAに比べてBのほうが

	A→B*	B→A**	合計(%)
簡単	2	2	4(14)
やや簡単	6	4	10(34)
どちらともいえない	6	6	12(42)
やや難しい	0	3	3(10)
困難	0	0	0(0)

\*A→Bは、Aの型紙を初回に、Bの型紙を二回目に使用して作成したグループの集計結果とする。

\*\*B→Aは、Bの型紙を初回に、Aの型紙を二回目に使用して作成したグループの集計結果とする。

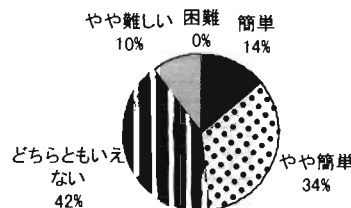


図13 質問1に対する回答(%)

Bシャツはほぼ中心に付いているようだが、Aシャツは左右どちらかに傾いて付いてしまうこともあったようだ。

表2 質問2に対する回答

1. 襟付けの作業はAに比べてBのほうが

	A	B
右寄り	2	0
中心	22	27
左寄り	4	1

3) 図14は袖付けの作業について尋ねた結果である。Bシャツの方が55%の割合で「簡単」, 「やや簡単」と答えている。襟付けの場合と同様, 袖山とアームホールは全く違うカーブで構成されており, それを中表にして縫い合わせる事が難易度を高めている。(図15)

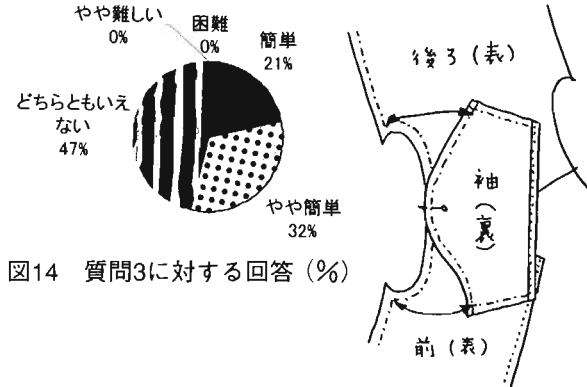


図14 質問3に対する回答(%)

図15 アームホールと袖山の接合

4) 図17は作業するうえで難しかった所をシャツ別に聞いた結果である。「襟付け」と「袖付け」が圧倒的に難しかったようである。襟付けを図16にあらわした直線の襟を小さな曲線にあわせて接合している。図15と同様困難な接合箇所である。その他の項目についても, Aシャツに付いて「難しい」と答える人数が多く, 型紙を変更したBシャツの方が構成上楽だったことが推測された。

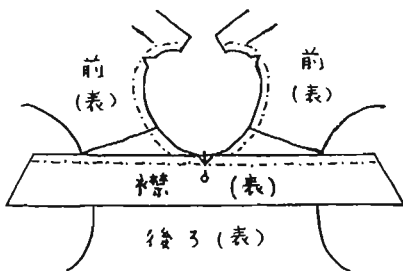


図16 襟と襟ぐりの接合

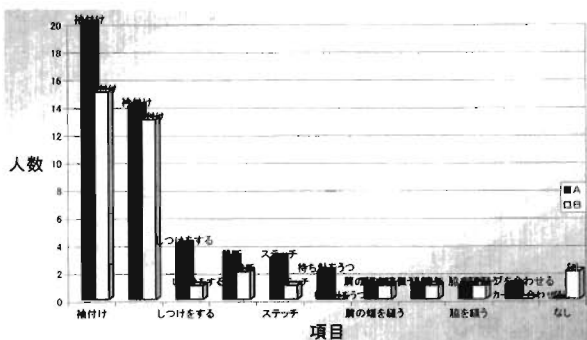


図17 質問4に対する回答(複数回答可)

5) 図18は作業手順を覚えることができたかについての結果である。76%が「できた」と答えている。

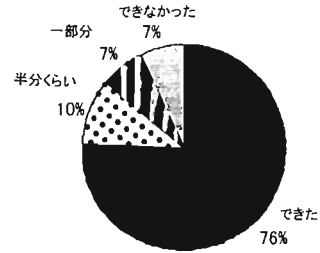


図18 質問5に対する回答(%)

所用時間の個人記録から平均製作時間を算出した結果は表3に示す。

表3 平均製作時間

Aの型紙を使用した場合 Bの型紙を使用した場合の製作時間

	A→B	B→A		A→B	B→A
1	2:25	2:05	1	1:15	2:32
2	2:25	1:50	2	1:45	2:22
3	2:15	1:35	3	1:50	2:05
4	2:25	1:50	4	1:35	2:25
5	2:10	2:05	5	1:40	2:15
6	2:27	1:33	6	1:45	2:23
7	2:28	1:40	7	1:50	2:30
8	2:27	1:40	8	1:47	2:05
9	2:30	2:00	9	2:06	2:20
10	2:30	2:00	10	2:15	2:30
11	2:40	2:00	11	2:35	2:26
12	2:30	2:10	12	1:57	2:30
13	2:35	2:20	13	2:07	3:00
14	2:50	2:15	14	2:03	2:55
15		2:15	15		2:40
平均	2:28	1:57	平均	1:53	2:27

\*A→Bは, Aの型紙を初回に, Bの型紙を二回目に使用して作成したグループの集計結果とする。

\*\*B→Aは, Bの型紙を初回に, Aの型紙を二回目に使用して作成したグループの集計結果とする。

1枚目の製作には時間がかかり, 2作目は短縮している。大きな差にはならなかったがBシャツの方が数分早くできているようである。仕上がり具合を見てもきれいにできている。(図19)

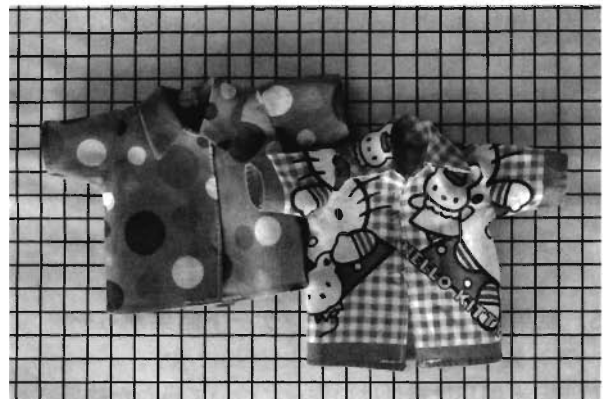


図19 Bシャツの作品例

## 6. 結語

立体構成の仕組みと仕立て方を同時に経験する被服製作では、製作のみに気を取られ理解の及ばないまま終了してしまうことが多い。着用目的で製作する作品は特に形が大きく、複雑になり、満足のいく仕上がりが期待できない。縫製上の注意点を理解させ、手順を頭に入れることは着用可能な作品を製作する上で必要不可欠である。

前回シャツを作る前に同形の人形用サイズのシャツを製作したところ、手順を覚え、注意点を理解できていることから仕上がりも良かった。今回は人形用シャツをより作りやすくするために検討を加え、前回の型紙を使った場合と比較して作りやすく製作時間を短縮できる型紙を目指した。結果として時間短縮は達成できなかったが作りやすい型紙になったと思われる。とりわけ袖付けに関しては、難しいと感じる者が前回のシャツより少なくなった。

前回に続いて今回も図のようにハンカチの縫製済みの四辺を利用して裁断し製作した。(図20) 楽しい柄の作品ができあがっている。(図21)

引用文献1)：加藤祥子，人形服を取り入れたシャツ製作-理解度を高め，美しく仕上げるために-，愛知教育大学家政教育講座，研究紀要第32号，愛知教育大学家政教育講座，平成13年，1～12

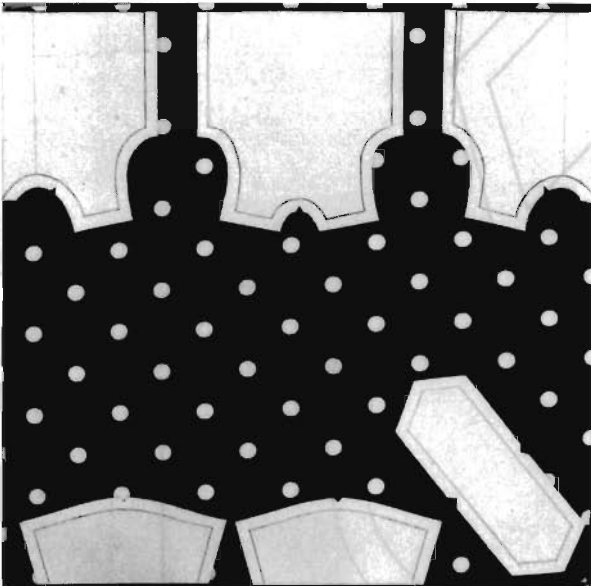
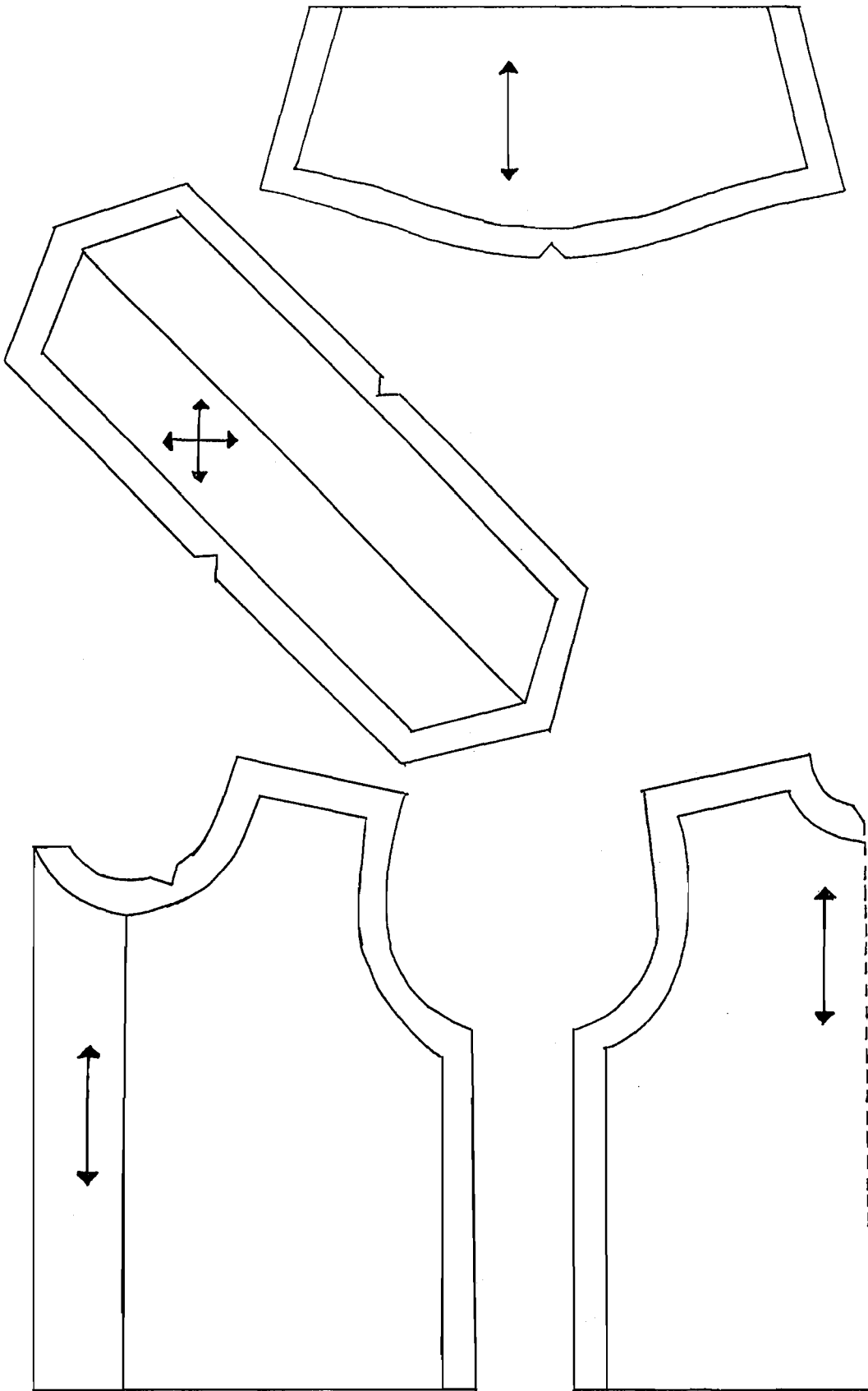


図20 ハンカチ上での型紙の配置例



図21 作品例

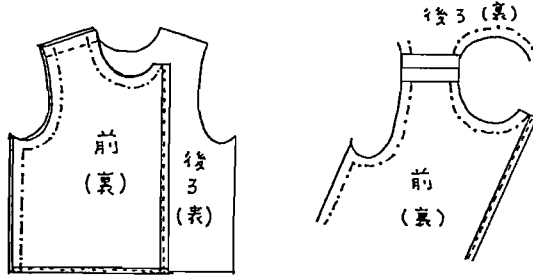
付録1: 改良後の型紙 (実物大)



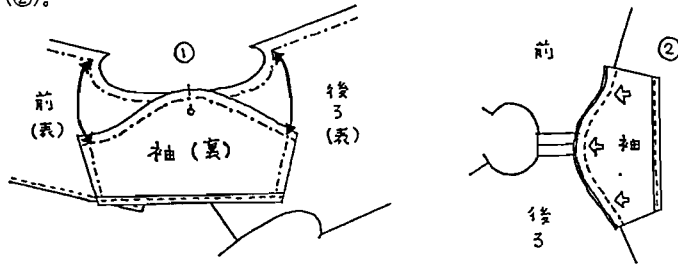
付録2：授業時使用した縫製手順のプリント

半袖シャツ（人形用）

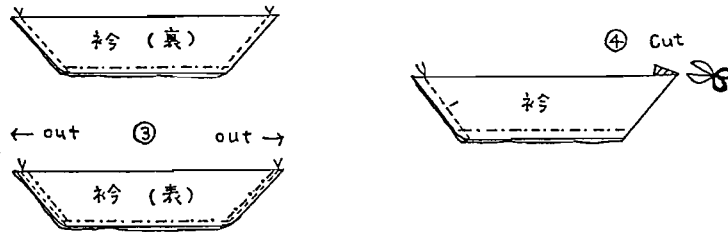
- 1) 前身頃と後ろ身頃を中表に合わせ、肩を縫う。(左右とも行う) アイロンをかけて縫いしろを割る。



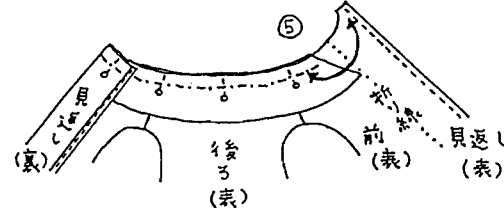
- 2) 身頃に袖付けをする。身頃と袖を中表に合わせまち針を打ち (①)、曲線に沿ってミシン縫いをする。身頃に袖付けをした縫いしろを身頃側に片倒しし、アイロンをかける (②)。



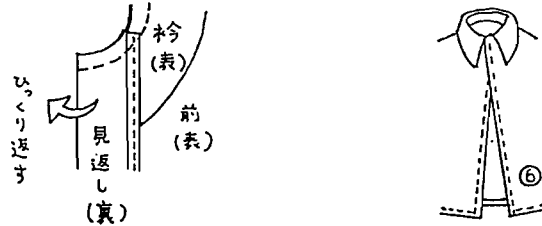
- 3) 襟を作る。襟は中表になるように二つに折り、左右両端を縫う。このとき、表襟側の縫い目は、出来上がり線より外側のところを縫う (③)。こうすると、襟を表に返したときの縫い目が裏襟側にかくれる。縫いしろを裏襟側に片倒しし、アイロンをかける。余分な縫いしろは切り落とし (④)、襟を表に返す。



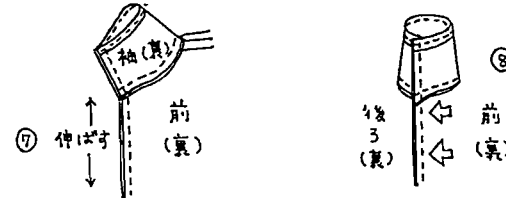
- 4) 襟付けをする。身頃の表側に裏襟側を合わせ、前身頃の左右の見返しを中表に折る (⑤)。襟と身頃の合印を合わせて左右の間隔を描え、まち針を打つ。ミシン縫いをする。



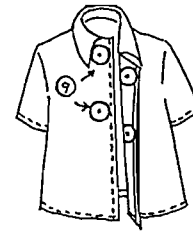
- 5) 見返しを表に返し、ステッチをかける (⑥)。



- 6) 袖から脇まで、まっすぐに伸ばしてミシン縫いをする (⑦)。縫いしろを後ろ身頃側に片倒してアイロンをかける (⑧)。



- 7) スナップを2カ所につけ (⑨)、アイロンをかけて仕上げる。



付録3: アンケート用紙

調査表

半袖シャツの作成方法を理解してもらうために、今回人形用のサイズで半袖シャツを 2 パターン作成してもらいました。Aの型紙を使用した場合とBの型紙を使用した場合を比較してください。

1. 衿付けの作業はAに比べてBのほうが  
(簡単、やや簡単、どちらともいえない、やや難しい、困難) だった。

理由 ( )

2. 出来上がったAの衿の位置は身頃の(右側、中心、左側)に付いている。

出来上がったBの衿の位置は身頃の(右側、中心、左側)に付いている。

3. 袖付けの作業はAに比べてBのほうが  
(簡単、やや簡単、どちらともいえない、やや難しい、困難) だった。

理由 ( )

4. 作業をするうえで、難しかったところはどこですか。

Aの型紙

Bの型紙

5. 作業手順を覚えることができましたか。